地衣 89 屬 563 種ガ列記シテアルガ、之ハ文獻ノ蒐集ニ過ギナイシ、更ニ後レテ明治四十三年（1910）ニハ齋田博士ノ「內外普通植物誌下等植物編」ガ出版サレ約 70 頁ガ地衣類ニアテラレ、卷末ニ 11 種ノ地衣ガ圖示サレテヰルガ、之モ著者ガ序文ニ述ベテ居ラレル樣ニ、ENGLER ノ 1909 年ノ分類法ニ依ツテ譯述セラレタモノデ特ニ日本產ノ地衣類ヲ扱ツタワケデハナイ。尤モ同博士ハ地衣類ニ就テモ相當ノ興味ヲ持タレ、前述ノ著書ヤ學生ヘノ講義ノ爲ニ、門人ノ相馬禎三郎、中鉢弘治氏等ト共ニ研究サレタソウデアルガ、勿論專門的ニヤラレタワケデハナク、之等ノ門人諸氏モヤガテ蘚苔等ノ研究ニ向ハレ、次ノ安田時代マデ約 10 年間ハ日本ノ地衣學界ハ無爲デアツタ。コノ頃ノ事情ニ就テハ飯柴氏ガ既ニ小文ヲ發表シテ居ラレル。[1]

芍藥ニ就テ

邦產藥用植物生產狀況調查（其三）

津村研究所 木村雄四郎

YUSHIRO KIMURA : Ueber die Japanische Arznei-drogen, ihr Anbau, ihr Einsammlung und Zubereitung etc. (III): Ueber die Rhizome von *Paeonia albiflora* PALL.

しやくやく *Paeonia albiflora* PALL. ハ古名えびすぐさ、かほよぐさ等ノ名ガアリ芍藥トハ其花ノ容ガ婥約タル故、斯ク名付ケラレタモノノヤウデアル。芍藥ハ**シベリヤ**ノ原產デ觀賞用トシテ恰ク栽培サレテヰルガ其根ハ重要ナ漢方藥デ古來頭痛、眩暈、腹痛、痢疾等ニ鎭痙及收斂藥トシテ用ヒラレ又利尿藥トサレテヰル。芍藥ハ我邦デ最モ需要多キ漢藥ノ一ツデ現在ハ主トシテ賣藥原料ニ供サレテヰル。

藥用トシテノ芍藥ノ栽培ハ東京府（1 萬斤）、奈良縣（5〜6 萬斤）、千葉、茨城縣（3 萬斤）、北海道（1 萬斤）等デ行ハレ年產額凡 20 萬斤ヲ算シ昭和 7

(1) 飯柴永吉：本邦地衣類研究小史 [植物趣味 II, 62-65 (1913)].

年内務省衞生局ノ統計ニ依レバ其產額 188,960 斤價額 7.193 圓ニ達シテヰル。

芍藥ハ其園藝的品種頗ル多ク神奈川縣農事試驗場ニ於ケル研究ニ依レバ其品種正ニ 600 種ヲ算シ米國デハ American Peony Society ニ於テ既ニ 2600 種ニ達スル品種ヲ調査研究中デアルト謂フ。藥用ノ芍藥モ亦其品種ハ多種多様デ從ッテ品種ト成分藥效トノ調査研究ハ品質ノ統制上緊要ナル問題デアラウ。

栽培法

芍藥ノ栽培ハ南面ノ日當リ良好デ排水佳良ナレバ傾斜地ヨリモ平坦地ガ宜シク地質ハ稍々粘質ノ壤土デ耕土深キ地ガ最モ良好デアル。一般ニ火山灰土ハ莖葉ガ徒長シ易ク砂土デハ線蟲ガ發生シ易イト謂ハレテヰル。芍藥ハ株分ニヨリ繁殖スル。植付ノ適期ハ 9 月上旬カラ 10 月下旬デ遲クモ 12 月中旬迄デアル。卽チ此時期ニ親株ヲ掘上ゲ



Fig. 1. *Paeonia albiflora* PALL.
しゃくやく（津村藥草園ニテ木村寫ス）



Fig 2. Kultur von *Paeonia albiflora* PALL. in Japan
東京府武藏野村ニ於ケル芍藥ノ栽培（木村寫ス）

主根ヲ採取シ其際主根カラ分岐セル多數ノ腋芽ヲ 2〜3 個宛附シタルモノヲ苗トスル。植付ハ畦幅 2 尺 5 寸、株間 1 尺 5 寸〜2 尺ガ普通デ植付用ノ苗ハ反當 2000〜2600 本、約 36 貫ノ苗ヲ要シ 1 貫匁當リ約 70 本ノ割合デアル。



Fig. 3. Auslesen der Päeoniewurzel in Japan
芍藥ノ選別（東京府下ニテ木村寫ス）

植付ニハ晴天ノ日ヲ選ビ右手デ所謂植穴ヲ掘リ左手デ苗株ヲ挿入シ兩手デ芽ノ上 5〜6 寸ノ厚サニ覆土シ次デ切藁ヲ散布シテ凍土ヲ防グ。

肥料ハ植付時反當稀釋人糞尿及堆肥 600〜700 貫、馬糞 400 貫見當ヲ用ヒ 2 年〜3 年目ノ各 9〜10 月頃適宜油粕ヲ施肥スル。第 3 年目迄ハ麥又ハ大豆ヲ間作スルコトガ出來ル。

尙手入ハ適宜除草及中耕ヲ行フ他、花蕾ヲ着ケレバ速カニ摘花ガ必要デアル。

然シ近年ハ都市ヘ交通便利ナ地方デハ花ヲ觀賞用ノ切花トシテ需要アルタメ取引スル向キモアルガ斯ル場合ハ 5〜6 年目ニ收穫スルノガ普通デアル。收穫ハ概ネ 4 年目ノ 9〜11 月頃デ株ヲ掘リ上ゲ次デ主根ト鬚根ト植付用ノ苗トニ分別スル。生根一株ノ目方ハ平均 300 匁デ反收生根 1000〜1500 貫、乾燥步止ハ其約 1/3 デアル。

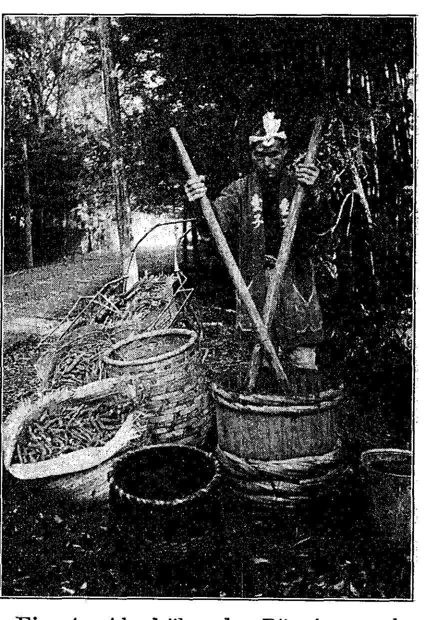


Fig. 4. Abschälen des Päoniewurzel
芍藥ノ剝皮（東京府下ニテ木村寫ス）

調　製　法

芍藥ノ調製ニハ所謂夏製ト寒製トノ

2 法ガアリ夏製ハ新芍藥ヲ夏土用カラ 9 月下旬迄ニ調製シ寒製ハ 10 月カラ 12 月中ニ採取シ翌春 1～2 月中ニ調製スルモノデアル。現在市場ニハ其調製ノ方法ニヨリ赤芍、白芍（眞芍）ノ 2 種ガアル。赤芍ハ根ヲ採掘シ鬚根ヲ切除シテ乾燥シタモノデ白芍ハ一名眞芍ト稱シ抱層ヲ剝除シ熱湯ニ處理シテ乾燥シタモノデアル。而シテ抱層ヲ剝除スルコトヲ俗ニ「みがき」ト謂フ。東京府下デハ「みがき」ヲカケルタメニ一仕込約 3 貫匁ヲ 4 斗樽ニ入レ適宜水ヲ加ヘ所謂「かんな」ト稱スル叉狀ノ棒デ約 30 分間左右ニ攪拌スルコト略ヾ里芋ノ皮剝ギト同樣デアルガ是ハ相當ナ力仕事デ一日 20 回、卽チ男一人一日ノ作業ハ凡 60 貫デアル。

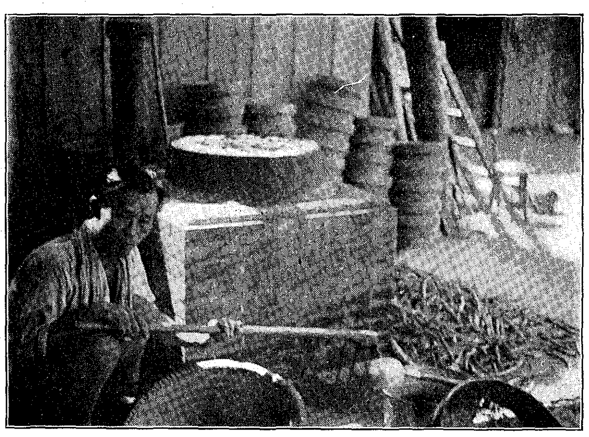


Fig. 5. Brühen der Päoniewurzel
眞芍ノ調製（奈良縣櫻井ニテ木村寫ス）

然ルニ奈良縣下デハ古來丈餘ノ丸太ヲ三脚ニ組ミ其中心カラ繩デ盥ヲ吊リ下ゲ是ニ少量ノ川砂ト適宜水トヲ加ヘ芍藥ノ根一仕込5～6貫ヲ入レ兩手デ動搖スルコト約 40 分位デ抱層ハ漸次剝除セラレテ上品ニ出來上ル。此方法ハ上述ノ東京近在ノ方法ニ比シ能率的デアルガ近來ハ更ラニ改良法ガ行ハレ若干ノ進歩ヲ示シテヰル。卽チ木箱ニ芍藥ト砂トヲ入レ木箱ニハ心棒ヲ取付ケ是ニ「はづみ」車ヲ連結シ足踏ミデ廻轉スル方法デ一仕

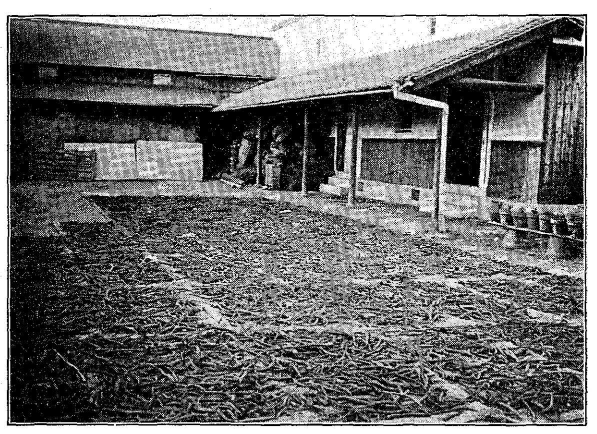


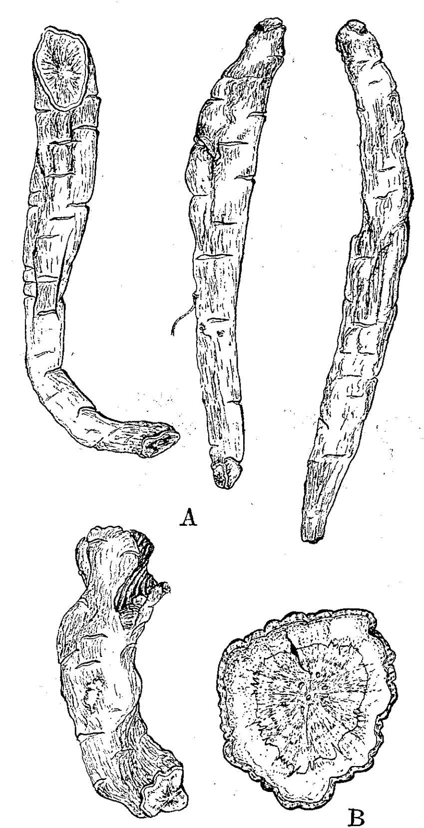
Fig. 6. Trocknen der Päoniewurzel
芍藥ノ乾燥（奈良縣櫻井ニテ木村寫ス）

込 10 貫位ガ 30〜40 分位デ奇麗ニ調製サレル。近來ハ更ラニ足踏ノ代リニ動力ヲ用ヒテ大量ニ調製スル向キモアル。

次デ是ヲ莚ニ擴ゲテ天日乾燥ヲ行フ、乾燥ニハ晴天凡 1 週間ヲ要シ乾燥歩止ハ凡 1/3 デアル

尙、眞芍ハ圖 (Fig. 5) ノ如ク大釜ニ湯ヲ沸騰サセ是ニ約 5 分間處理シタ後乾燥シタモノデ澱粉質ハ糊化シ鼈甲色ヲ呈シテヰル。是ハ特ニ支那、臺灣ニ輸出又ハ移出スルタメ調製サレルモノデアル。

又近來ハ其調製法ノ一ツトシテ燻製法ガ行ハレテヰル。此方法ハ煙道ニ芍藥ヲ並ベテ乾燥シタモノデ外觀黑褐色ヲ呈スルガ貯藏中蟲害ヲ被ムルコト少ク漸次市場ニ歡迎サレテヰル。



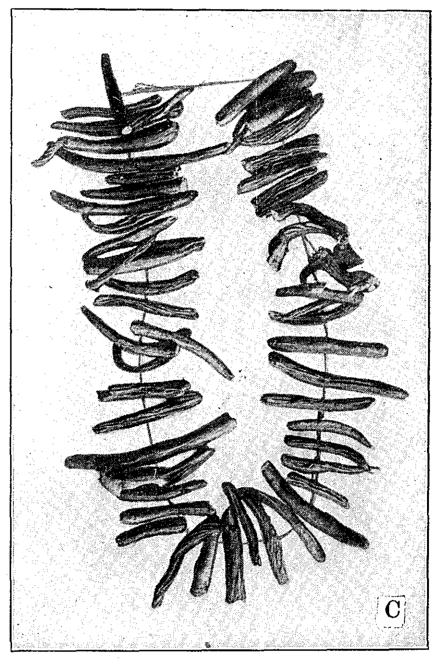


Fig. 7. Die Japanische Droge "Syakuyaku" (Rhizome von *Paeonia albiflora*)
A. 芍藥ノ全形 (1/2 大)
B. 其横斷面 (2/1 大)
C. 茨城產芍藥 (縮寫)

品　質

芍藥ハ其調製法ニ從ヒ市場デハ赤芍ト白芍（一名眞芍）トニ區別サレテヰル。

赤芍　根ヲ採取シ副根ヲ切除シ乾燥シタモノデ俗ニ生乾(セウボシ)ト稱スルモノデアル。本品ハ紡錘狀ヲナシ屢々彎曲シ長サ 10〜20糎、太サ 0.8〜2.5 糎ニ至リ肥大ナルモノハ縱割サレル。外面ハ淡黃褐色又ハ赤褐色ノ皮鱗ヲツケ著明ノ縱皺ヲ帶ビ又副根ヲ切除セル疣狀ノ瘢痕ガアツテ黑褐色ヲ呈シ橫徑ニ皺縮スル、橫切面ハ粗糙デ粉質ヲ呈シ皮部ハ赤褐色、木部ハ淡黃褐色デ微ニ年輪及放射狀紋理ガアリ、氣味ハ收斂性デ微ニ苦味ガアル。

尙芍藥ノ生藥學的知見ニ就テハ藤田博士ノ和漢生藥圖解第12圖版（藥學雜誌44卷附錄、大正 13 年）ニ圖說サレテアルカラ玆ニハ是ヲ省略スル。

白芍　芍藥ノ抱層ヲ剝除シ熱湯ニ處理シテ乾燥シタモノデアル。本品ハ外形略々赤芍ニ類スルモ外面ハ蠟樣類白色又ハ肉紅色ヲ帶ビ質ハ堅硬デ破切面ハ鼈甲色ヲ呈シ稍々透明デアル、氣味ハ收斂性デ苦味ヲ有スルモ赤芍ニ比シ乏シイ。

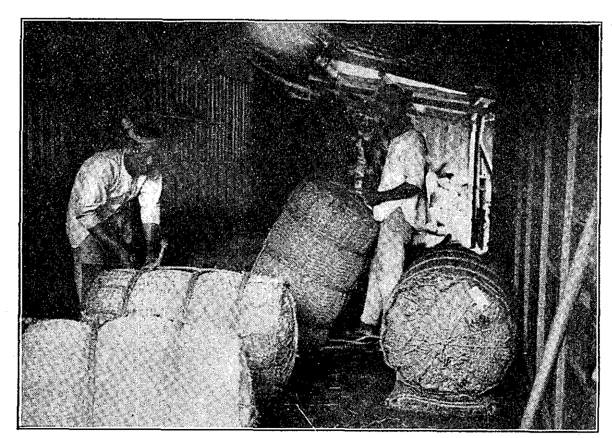


Fig. 8.　Verpackungen von Päoniewurzel in Japan
芍藥ノ荷造（木村寫ス）

和語本草ニ依レバ「又唐様(カラデ)ト稱スルハ漢渡ニ擬シテ沸湯ニ浸シ乾ス、故ニ性味薄クシテ生乾ニ及バズ、根ノ赤白ハ花ノ色ニ隨フト時珍ノ說ニ言ヘリ、然レドモ舶來ノ赤芍藥ハ皆ナ粗皮ヲ去ラズシテ乾タルモノナリ、白芍藥ハ皆皮ヲ去リ蒸乾スルモノナリ」トアル。

今芍藥ノ一般成分ヲ檢スルニ次ノ如キ結果ヲ得タ。

種　類	水分 %	灰分 %	アルコールエキス %	水製エキス %	アルコールエキス中灰分 %	水製エキス中灰分 %
赤芍（茨城縣產）	13.400	3.400	19.443	23 640	0.074	1.606
燻製（千葉縣產）	14.230	3.650	20.930	33.520	0.146	1.366
赤芍（奈良縣產）	15.142	2.754	19.760	34.620	0.080	1.780
白芍（奈良縣產）	8.050	2.880	4.400	20.416	0.050	1.274

芍藥ノ有效成分ハ安息香酸ガ證明サレタ他未ダ詳カデナイ。

又**やましゃくやく** *Paeonia obovata* MAXIM. var. *japonica* MAKINO ノ根モ亦薬用ニ供サレルコトガアル。山芍藥ハ根細長ク赤味ヲ帶ビ是ヲ栽培スルモ收量少ク品質劣等デ價額モ低廉デアルタメ現今殆ンド市場ニ見ルコトハナイ。然シ山芍藥ハ氣味芳香性デヨク貯藏ニ堪エル爲メ屢々其野生品ヲ採取シ其粉末ヲ薬用ニ供スル、卽チ其芳香ハ牡丹皮ノ成分ト同ジクぺをのーる Paeonol $C_9H_{10}O_3$ ニ基因スルモノデアル。

終リニ本調査ニ際シ分析ヲ擔當サレタ河上暢男君、並ニ調製上ノ助言ヲ與ヘラレタ金子鷹之助氏、福田新次氏ノ各位ニ對シ厚ク謝意ヲ表スル。

眞鶴岬ノなぎらん

岸　田　松　若

Matsuwaka KISHIDA: *Cymbidium lancifolium* HOOKER in Manazuru-Zaki, Prov. Sagami, a new locality

昨年ノ 2 月 11 日ニ眞鶴岬ニ採集ニ行ツタ時、岬ノ端ニ近イ小サナ溪合ノ斜面ノ林中デなぎらん *Cymbidium lancifolium* HOOKER ガアルノヲ見出シタ。

之ハ松野マサ子氏ガ採ツテ來タモノデ、場所ハ海ニハアマリ近クナイ——然シ海ハ見エル——南面シタ幾分陰濕ノ溪合ノ黑松林デ、之ニたぶヤやぶにくけいノ大木ガ所々ニアリ、ソノ外いぬびは、かくれみの、やぶむらさきナドモ混リ、はまひさかき、あをき、きいちごノ類、こあかそノヨウナ灌木ヤ夏秋ノ候ハゐのこづち、やまはくか、禾本ノ類ソノ他ノ草ガ雜然ト生ヒ茂リ、冬ハあづまざさヤまなづるざさノ茂ミノ間ニゐのでノ類ヤべにしだガ翠ヲ誇ツテ居ル所デ、見タ數ハ總體デ 12—3 アツタラシイ。

6 本許リ採ツテ來テ歸來鉢ニ植エテ室内ノ暖イトコロニ置イテ、4 月頃暖ニナツテカラ外ヘ出シタ。愛養ノ甲斐ガアツテ 6 月ノ中頃新シイ花芽ヲ出シテ 7 月ノ始メカラ咲キ初メタノデ同月ノ 10 日ニ寫眞ニ撮ツタ。圖ガソレデアル。

花蕾ガ太分膨ランダ 6 月ノ終リ頃ト思フ。松野氏ヲ案内トシテ再ビ同地ヲ訪レタガ、草ガ深ク、且ツ天候モアマリ上等デナカツタセイカ、2 人トモ 1 本モ見ツケ得ナイデ手ヲ——デャナイ胴籃ヲ——空ウシテ歸ツタ。鉢植ノモノモド